

JAPAN Venture Awards 2011

氏名	秋元 義彦氏 (Yoshihiko AKIMOTO)
役職	代表取締役
会社名	株式会社パン・アキモト
所在地	〒329-3147 栃木県那須塩原市東小屋295-4
会社HP	http://www.nasuinfo.or.jp/FreeSpace/aki_pan/
創業のきっかけ	阪神淡路震災時、パンを義援物資に送るが、賞味期限内に届かず、一部廃棄されたことがきっかけ。「パンの缶詰」で可能な食糧備蓄と、海外の飢餓地域で食糧難に苦しむ人々への義援を同時に履行出来る画期的なソーシャルビジネスとして「救缶鳥」システムの開発を目指しました。



プロフィール

1953年栃木県那須塩原市にパン屋の長男として生まれる。地元の小中高を卒業し、75年に法政大学経営学部卒業。米国人キリスト教宣教師と発展途上国を見て廻り、飢餓地域の厳しさを目の当たりにする。パン屋の丁稚奉公(修行)を終えて実家に帰り、厳父の下で経営を学ぶ。95年阪神淡路大震災をキッカケに、日持ちがする美味しい「パンの缶詰」を開発。更に2009年、備蓄しながら国際貢献が可能な「救缶鳥プロジェクト」企画を発案、実施。



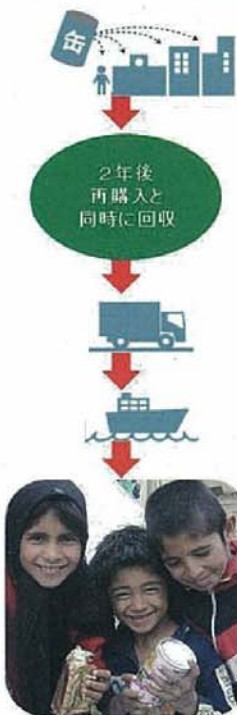
事業内容

パンの缶詰「救缶鳥®」は国際貢献活動もできる非常食です。

1. パンの缶詰「救缶鳥」は3年の賞味期限内、2年間はお手元で備蓄しご利用できます。
2. ご購入から2年が経過する1~2ヶ月前に国際貢献活動のご案内を致します。
3. 2年後、再購入と同時に回収ができます。(配送・回収はヤマト運輸が行います。)

- ・再購入の場合、購入代金から「回収個数×100円」ディスカウントさせていただきます。
- ・支援活動の参加者に感謝状が送られます。

4. 残り約1年の賞味期限の間に日本中から回収され、日本国際飢餓対策機構等を通じてコンテナで輸送し、世界の飢餓に苦しむ人々を救う食料として現地に届きます。



受賞ポイント!

新しい備蓄食として、柔らかくて美味な「長期保存可能な備蓄用パン」を開発した点。さらに、備蓄用パンのリユースシステム「救缶鳥プロジェクト」によって、被災地を救済するなど、事業を通じて社会貢献を果たすソーシャルビジネスに取り組んでいること。



Japan Venture Awardsについて

「Japan Venture Awards(以下JVA)」は、平成12年度からスタートし、これまでのべ173名の受賞者を送り出してきました。JVA 2011では、社会性、先遣性、革新性、地域性、国際性、技術性等に優れた事業を行い、リスクを恐れず挑戦する起業家を表彰しています。地域経済と雇用を支える「創業」や、将来の日本経済を牽引する「ベンチャー」企業の経営者の皆様を、ロールモデルとして広くご紹介することで、創業機運の向上と我が国における創業の促進を図ります。

中小企業庁長官賞とは

事業内容、活動実績、経営者の資質等を総合的に評価して特に優秀な経営者に与えられる賞です。

表彰の基準

- 1 事業の新規性・革新性
- 2 事業の成長性・将来性
- 3 経営者/経営方針 (意欲、キャリア活用等)
- 4 社会・経済への影響度

パン・アキモト長官賞
社会貢献などに評価

「ジャパン・ベンチャー・挑戦・情熱」をテーマに審査された。パン・アキモトは、備蓄食(主)の表彰式が16日、東京都内で開かれ、パン・アキモト(那須塩原市東小屋、秋元義彦社長)が大賞に次ぐ中小企業庁長官賞を受賞した。

表彰は社会性や先進性、地域性に優れた起業家を表彰し、創業機運の向上を図ろうとする2010年度に始まった。今回は柳孝一、稲田大教授らが「独創

宇都宮証券
おかげさまで100周年 感謝の心でこれからも
本店・宇都宮東・今市・鹿沼・真岡・西那須野
☎028-614-5111(代)

「パンの缶詰」社長 長官賞
途上国・被災地支援を評価

「パンの缶詰」で知られる那須塩原市の「パン・アキモト」社長の秋元義彦氏(57)が16日、独立行政法人「救缶鳥プロジェクト」が主催する表彰式で、同賞を受賞した。同賞は技術だけでなく、社会性や国際性に優れた事業を展開する起業家を表彰するもので、今回10

「パン・アキモト」は1995年の阪神大震災を機に、備蓄できるパンの缶詰を世界で初めて開発。2004年から被災地や食糧難で苦しむアフリカなどに送ってきた。09年秋からは救缶鳥プロジェクトを始め、被災地にはハイチの大地震被災地に回収した缶詰約3万缶を送った。これまでに自治体、企業など3000団体に参加している。

受賞式で秋元社長は「新しい防災のあり方、市民参加型の国際貢献として認められ、とてもうれしい。プロジェクトは自治体や企業などの協力なくしては成り立たない。今後は学校などにも協力を呼びかけていきたい」と話していた。

自社開発したパンの缶詰「救缶鳥」を被災地に提供するなど、事業を通じて社会貢献を果たしていることが高く評価された。秋元社長は「大きな賞をいただいた大変驚いている。これを弾みに世界に役立つ事業を展開していきたい」と喜びを語った。

表彰式では同機構の前田正博理事長が「受賞者の活躍がこれから創業しようとする人たちへの励みとなる」などあいさつした。

2011年2月17日
上野新聞
左 読売新聞